明治新撰地理教科
萬國百物語

万國百物語

初編

一

ル 2
3248
1

門 ル2
聚 3248
巻 1

萬國百物語

瓜生政和編集
石塚寧齋畫圖

東京 書肆
保永堂 板

叙

一日隣人かの童子僕が机に傍らに拾ひて云ふ是と友達と吹くめりよ世界我国五大洲の一大名所なり種々のものなりと我日本も何国の大洲の内にて英吉利い何と云ふ洲に都とやト僕欺じて所性所産後世忘るべ〜実に文明開化に秋なり初学の年に満ざるも早已に此問あり教えぞんバかるべ〜と一時の奮発に

懶惰を忘れ彼の書籍の出来栄拾ひ珍らしきものをえらびて一二ヶ條づゝ拾ひ出し童子に教へおかせ語りを倣ひて果早晩の大義の今古世代琴棋書画六芸七道に亦なりよりあり富士に於て隙なき童蒙人も看せしめ春の朝は赤本より換んしの会起り参年より拙なるとも憚りなく梓に上る事しい為めをもて元より不学浅見の拙き物語なれば且爾り名と

用ひんと為る故英語佛語蒙訳を雑へ地理書と称する程ふとも物産記なれども云ひ難きを以て童子に話せしめ傳と為て此書の銘を員に第國百物語と題する

不南無

広生政和述

全洲圖

歐羅巴

○一の巻目錄

○歐羅巴全ろうのもの　一丁
○土耳其國のもの　四丁
　并屬島のもの
○曾西亞國のもの　九丁
　并屬島のもの
○普曾士國のもの　十八丁
　并屬島のもの

○二の巻目錄

○墺地利國のもの　一丁
　并屬島のもの
○西班牙國のもの　八丁
○葡萄牙國のもの　十七丁
○赫勿蔞亞國「シュリセの滝」のもの　二十丁
○伊太里國のもの　廿一丁
　并列島のもの

○通計十四條

凡例

一 里数ハ我三十六丁の一里ヲ表し尺もまた我曲尺ヲ表し量目もまたヲ准じて用ひ

一 弗も表るべきものハ当世の和蘭ヲ合せ行十行字と称じて記し

一 何年あと在るハ明治五年より遡り算入するヲ以て千百行年と在るハ西洋の紀元よりあり

一 書中の繪図ハ只手本とするヲの位置を記せしまでなるべ具るべれど見ハ童蒙ヲ扶り安きを欲しまり

萬國百物語巻之一

東京　瓜生政和編集

○歐羅巴刄中の部

歐羅巴ハ往古の希臘國の帝都の名ヲ以て繁昌ならぶ方なき市町なりけるバ土地の人其花やうなる墓ひ遂ヲ全刄の總名となせりとぞ此國五大刄の中ヲ以て最も小狹くして世界の陸地を十四ヲ

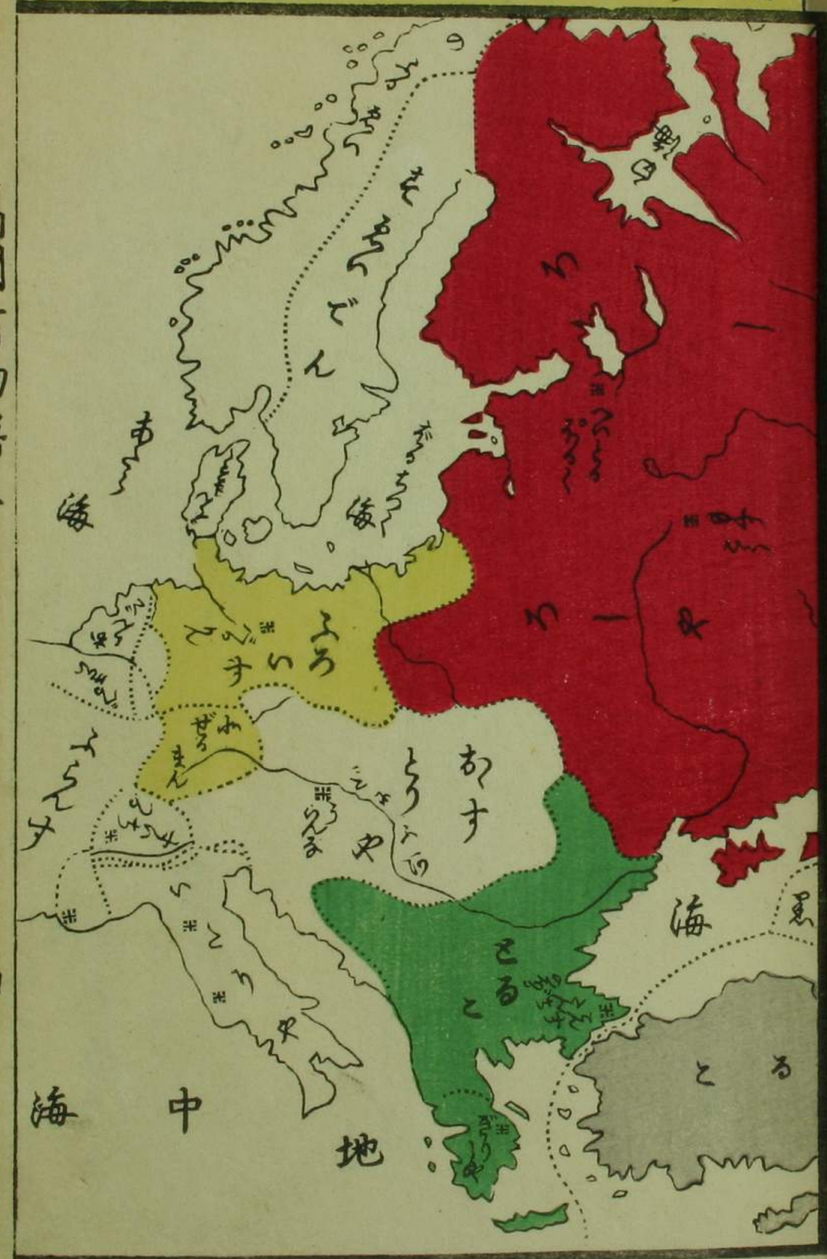
割て其一分ハ居り魯西亜の領分ことゞ半ハ過ぐ
然ども人口ハ二億六千五百四十一万除ハして世界
の人口を四ッハ割り其一分を有ッとハ国の疆域
北ハ氷の海ハ至り東ハ亜細亜刕と烏拉爾山北
高海黒海等を以て界とるー南ハ地中海亜非
利加刕ハ隣り西ハ亜太腊海ハ限る国を分て北中南
の三ッとるー時候ハ都て寒く惟南の方の海ハ
向ひる地ハ暄暖なり人の風俗ハ国所ハ因りて

種々なれども大概一人の男一人の女を守り身柄なき
人ハても妾を置ひ女をゆるとるー言辞ハ三
種ハ別て一ハ羅甸語羅甸ハ今の伊太里なり佛
蘭西西班牙葡萄牙など是ハ原く二ハ獨逸語
英吉利和蘭嗹国瑞典及び日耳曼列国之ハ原
三ハ斯剌勿泥亜語翁加里亜魯西亜土耳其之ハ
原く通用の貨幣ハ金銀銅を用ひ
紙の札とも用ひなど大札斗りハして小札ハなー

遠方い犯さら近き畔りふても金高多きしるきい
持運び取扱ひとうふ不自由ゑる故千両万両の大金
ふても札るまび衣服の隠しへも入きらゑの便ゑると
以て是とをふ金銀不自由ふて拵へる物ふ有ら
ざまび小札いゑ〜大札ばりゑりと云ふ
人へ全国ともふ身の丈大きく髮い唐桑の毛ふ似
て眼の瞳紺色ゑり性質怜悧く天文地理まく術
芸ふ達す常ふ大海ふ船を浮べて外国と交易

通商すると好む食糧い麦ふて製しる蒸餅とて
饅頭の皮の乾きし拵ふ物と牛豕の類ひの獣肉と用
ゆ衣服い筒袖白の肌着股引ふて皮の踏と履家い石
或ひい煉化石ふて畳ミ四五階より六七階の高さふ至
る當時全刄と十六ふ分け其中ふ帝国と称するゆ
四ッゑり土耳其国魯西亜国墺地利国普魯士国是
ゑり仏蘭西国も去年までい帝国ゑりしが三世ゆ
の帝拿破崙とらふ人普魯士国と戦争ふおよび

細亞
海
亞
海
海


海
海
海
海
地
中

貢て降参をーけまび共和政事の国とをうう
其外王国矣国共和政事の国々をう

○土耳其國のをるー

○土耳其い歐羅巴及中の南よりの地ゑーて歴山
王と言ふ人の生まーをり歴山王い智勇亜及
の大将をまび歐羅巴及亜非利加及を切従ゞ
亜細亜及を伐平らげて一天世界の国王ゑ成んと
及び印度と攻をんと計ゞ印度へ従ゆ大沙漠と

て大いをる沙原の六百里も六百里も不と絶すをう故ゑ
歴山王軍を汁原中へ向をるゑ熱国の沙地の暑さと
水の乏しきゑ苦ーこと兵卒多く死ーけまび敵国まで
至らずして軍勢を本国へ引返ー王いその後酒ゑ
當りて死せうと言ふ歴山王い世界ゑ名高き豪傑
をう国の首都を公斯瑠低諾波爾とゆふ當所い
切支丹宗門の本山羅馬国の帝の東の都とせー
舊跡ゑて領分い亜細亜及と亜非利加及ゑ跨う

威勢廣大なるゆゑ故に歐羅巴に在りても他の諸
邦の會盟に列ならず超然として獨立なる法教へ
嗎哈默多といふ人の定めし宗門回教と用ゐるを以
て年号も他の国と同じからず嗎哈默多い亜非利
加及の中亜拉比亜国なる默加といふ地に生まれ我
宗門と定めんとせしに耶蘇宗の者に憎まれ終ひに
武士の麥地拿と云ふ所へ逃来り始めて回教の盛ん
なるに至る因りて嗎哈默多の麥地拿に来りし

年を年号の紀元と定む嗎
哈默多の麥地拿に来りし
日本の明治五年より千二百
二十八年にあたる
土耳其の人い勇気盛んに
て死をも懼まず故に伊太
里の国の人是を諺へて他の
歐羅巴の人五人寄りても

土耳其の人の一人ふい敵し難しと言しゞ英吉利仏蘭西魯西亜とうのゐく鉄炮の術大いに冴けしゝゞ夫より戦ふ毎ふ土耳其人敗北し領地を失ふこと少なからず因りて伊太里の人まゝ評して土耳其の人の五人の他の欧羅巴人の一人ふ敵すべからずと言り爰ふ於て土耳其の人憤怒ふ堪えず大いふ鉄炮の調練をなし武威古しへふ十倍す今より二十二年おふ英吉利仏蘭西と共ふ魯西亜と戦ひて勝ことを得たり

此国の海の中ふ欧里普斯と言ふ所あり此辺の海の潮い一日の中ふ七度ゞ満干あるあり往古の賢人なる歴山王帝の師匠亜利斯多と言ふ人其理を見届んと種々ふ勉強ゝども知ずず然るを強て是を究めんとなし遂ふ海の水のゐふ死しゝうと言ふ又その近き傍の海の中ふ哥斯と号くる島あり此島い欧羅巴中の名医依ト加得とふ人の生

も地なり

當国は歐羅巴中の上国にして寒暑程よく万の物皆備はり米を以て常の食糧とはなす土地の人嗎哈默の教えを信仰するを以て豕の肉を食ひ葡萄酒を飲むを厳しき禁物とはなせり

この国の鼻祖は土耳其斯坦にて獨立韃靼とも言ふ国の阿斯蒲と呼ぶ者にて智勇兼備の英雄なりしが匹夫より起り所々の戦争に討勝て終に土耳其の帝となり今もなほその子孫にて相続せりとぞ

○亜細亜土耳其は往昔那多里亜と言ひしなり

西は北耳西亜にて黒海と地中海に突出し亜細亜洲の西の外まの隅にあり狭き海を隔て歐羅巴土耳其と連なり亜拉比亜に跨り亜非利加に地つづきなり左は波漢の西多に中に大なる府百三十ヶ所あり然れども人口は古地の廣き

別名ハガーと云只繁昌するハ士麥拿。大馬士革の二
ツの府下なり此所へ何も人口十万ホどゞ余ハ
万ホ及ホの九ケ所二万ホ幼るもの廿八ケ所とゝ
古代ホハ勢ひ盛大る地なりしが土耳其帝の先
祖阿斯滿の為ホ攻取らるゝ終ホ其領分となり
さり此地ホ怪しき湖水あり是を死海と号く魚
の類一切生ずること能ハず其水清浄ホして底のもの
皆透徹り見ゆる程なれど鹵気甚だしく多し

故ホ岸の畔ホハ常ホ塩の凝り固まりたるあり此
水へ試ホ物を投入れたるホ石金の如くホ重く
ざまで沉まず又旅する人其湖の近き畔りを通り
て水より立昇る蒸気ホ觸るゝ衣服悉ク卑
湿と受るゆゑホ覚え後二三日を経まで其衣服
こゝる腐れ壊れて物の用ホ立ずとゝふ此湖水
より東ホ當りて歐法臘得とゝふ名高き大河
先流れて景色の美なる画工も筆を捨べくこゝ

壁山帝の舊跡あり當地ハ時候温和ホーク五穀金銀多きを以て近き四辺りの国々ホを称して天下の楽土とするまき温泉あり数十ヶ所ホ噴出して能くろくの病気を愈やしたり

ハ国ハ亜細亜劦の方ホ属するものと雖とも歐羅巴土耳其と地さき続きホて且その領分るゞ故ホ爰ホ記す

○翁加里亜劦ホハ名酒甚ご多く其品四百種餘ホ及び中「トカエル」と言ふ酒を最上とす又国の首都「スリスベルグ」府の近傍ホ大いなる河有りて鯉魚の生を駄ごーく子を摺とろホハ両方の山岸へ飛騰ると以て人是を手捕ホるとふ

○魯西亜のをろーや　俄羅斯とも云ふ

○魯西亜国ハ世界一の大国ホして歐羅巴及ろっぱ始り

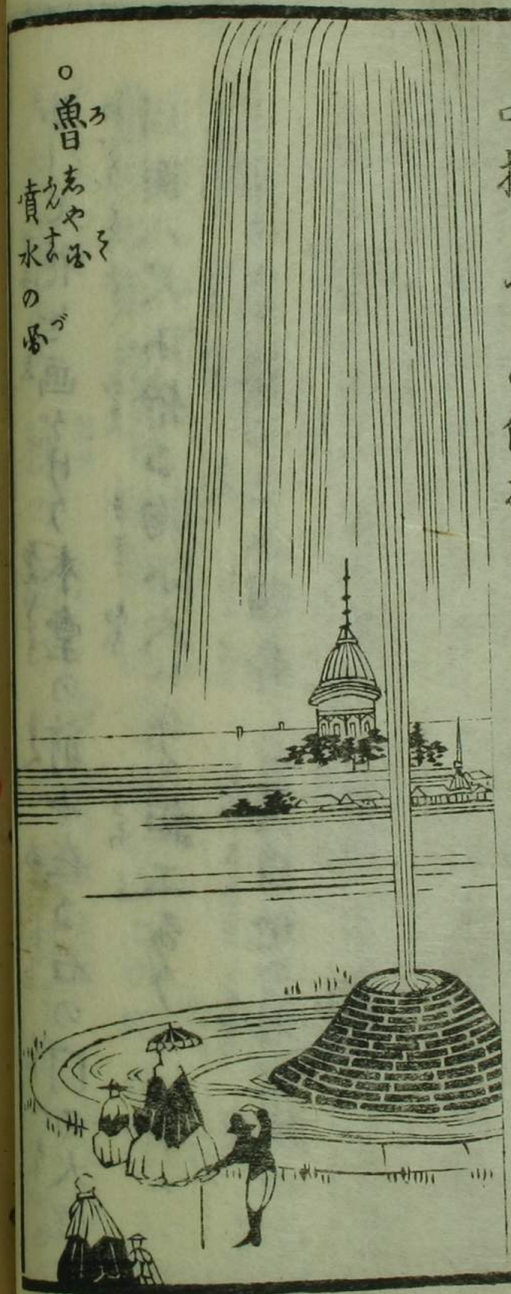
亜細亜ゑ ゑ漫衍亜米理加ゑへ跨る我が日本ゑい領
地すべゑ打雑るゑ至る気候へ總て寒くして甚
ごきゑ至るべ水銀凝固つて流も動くとなー
北ゑの地ゑ至りくへ冬の中へ常ゑ薄夜の如く
ゑーて降積りー雪へ野山を埋め白銀の海
ゑ似ゑりとぞ

當国の首都と伯得爾堡とゑふの町の中ゑ
天主堂あり棟の高さ十丈餘柱ゑる青塗

ゑーて花と画ゑけり本堂の前ゑ在る石の門の大柱へ
周囲八尺ゑ除る洵ゑ大いゑる鉅工ゑり
王宮の高楼の上ゑ国帝と其后妃の冠を收む帝
の冠の正中ゑ大いゑる金剛の瀆石を一ツ置ゑり此石の
價千百万金ゑ過ると言て百年以来未ざゑ價を定
むるとゑ毎年三万金を其買主へ拂ひて今日ゑ
至るまで止ずとぞ

又国帝の行宮ゑ地の下へ鋲の管を埋て河の水を

引き是と吹揚らする処あり水の突昇ること十丈餘遠く放きて望み見んまび水晶の柱を建るが如く水を吹揚らするの仕掛い亦国ふ及ぶ所なし



○曾
貴水の滝

西南よりの地方ふ馬林博爾とふ地あり此処の河ふ大いなる鉄の橋を渡せり長さ十五町餘高さ四丈ふ過ぐ此鉄の橋を造るの失費百五千万両かりしと言ふ

此国へ嗹国の「ロリク」とふ人渡り来りて開き始め領分追々廣ぐりなると犯野蠻国の風あるを伯徳琛とふ智恵ある大将の代ふらるる是を杢さんと自ら兵卒ふ雑りて調練をな

和蘭へ往て船大工と成り英吉利へ渡りて時斗の職を覚え輿地利とふ国へ越て陸の軍の誓古と文藝武術い言も更ゐ諸職人の手業そぐ残らず学べて後国の仕法を尽く取替へ只一代ゐーて文明冥化の世とるーろう魯西亜も王国るりーが伯徳琛ゐ至りて始めて帝の尊号と称へろう伯徳琛帝の如き人い魯西亜冥辟以来前後亡類の大将ありとぞ

此国ゐ常の物と異るる鑛鋏を出す一い色黒く一ハ色赤くーて黄を含むその性質何とも堅く緻細ゥるる故大炮を造るゐ良と言ふ

彼得爾堡府より八里ゐど隔て克龍斯大的と言ふところの海の中ゐ臺場三坐あり鼎の足の如くゐ峙ち立築造堅固ゐーて虎跳り龍蟠るの勢ひを有ッ今より二十二年ゐ此ゐ土耳其英吉利仏蘭西の三国と敵と臣戦ひゐ及びる

時英仏土の兵船爰ゝに至り此三ヶ所の臺場の為ゝ打痍めらるを終ゝ進ミ攻るを能はざりしそ

○南峩羅斯ゝ可薩と云ふ所あり此地の人能馬ゝ乗と以て国王是を騎兵隊とし戦争ゝ出るを貢とるさむ可薩の人戦場ゝ於て四辺を巡邏り敵陣の斥候をなすあり戦ひゝのぞむとき深く重地ゝ攻入ッて殺戮し険危を冒して懼る色なし斥候する時敵追来るとき馬を飛せ走るゝ早くして及ぶ者なし

當国の舊首都莫斯科府ゝ大いなる梵鐘あり寛さ六十七忽一分二厘 重サ二万二千 頃一ん二百七十一貫め 値十五万両ばかりしとそ

また大砲一挺あり 穴の内へ人坐りて狂寛うあり然ともども古へより是を放ちしことなし

魯西亜領の中ゝ僧徒の数二十七万四千人ありて其うち二十五万四千人ハ希臘教の宗門あり又

比惣こゝの僧徒の女房子供とうの数と合すれば
五十四万人餘ハ及ぶ總て僧徒の種類ハ屬すもの
諸の運上と脱ゝと罪と犯すも刑罪其身体ハ
及ぶとなりとゝふ

魯西亜韃靼一名止百里亜国い亜細亜洌の中
なりとゝども魯西亜と地続きハして且其国
の領分ゝもとゞ爰ハ記す止百里亜の中
○以爾格都加領の地ハ地生羊とゝふ物生ず体

至つて少さく春ハるゝと長き莖伸ゝち毛茸生
来る形狀恰も羚羊ハ似ゝり比毛茸その周囲の
草弁と蠶食人試ゝハ是と切り或ひい刺みど
ゝもとゞ赤き色の液流と出ゝること血の如ー採て食
すもとゞ味ひ魚蝦ハ似て美味ー土地の人こゝと
ホヲメツと名づく西洋襍記とゝふ本の中へ地生
羊のことと書載ゝるハ本草綱目の事と引て
地生羊い西域ハ出ヅ羊の脇と抜て土中ハ種

溉ぐふ水を以て為るとび雷の声裏くを受く生ず長ずるふ及んぐ脛を断て旅行しめば草と蓄ふ秋ふ至つて食す可し脛の内の後ふ種あり瓏種羊と名くと

世俗ふ雷の裏くとき脛を出せば抜採らふ

と言ふ諺あるい此地生羊の雷の声を受けて生ずるより始まる物う

同じ領地のうちふ大いなる湖水あり白哈兒と云ひ

昊湖とも号く廣さ二十三里餘袤百十里餘なり

大清一統志の中峩羅斯の條ふ此湖水の支を記し漢書を引く蘇武が北海の上ふ羝を牧とあるいなら〻此処ならんと言り此湖水ふい魚夥ぐく生じ又海狗とも産す一年のうちふ獲るところ二千頭餘ふ至もり此地の北の方の海辺を沙漠厄鄧とらふ土地の人短小くして身の長四尺ふ足らず皆馴鹿を食糧とるす冬の月ふるとび

日の光り稀薄終日日の暮ぐるの如し斯の如くなれども寒気水銀酒の類ひとしくども凝固りて動らず然れども夏いまだ四十日ならずの間ぐに炎熱燬ごとし

と云ふ

○堪察加とふ所ハ魯西亜領の北東の外海にして寒さ強けれども草木も育ずず人もまれにして小さき犬を用ひて馬の代りとなし鹿を捕えて

牛の如くふ使ふ魚を採り食とする山の麓五の下るゞ横穴を堀りて住居とする魯西亜の人罪ありて島流しにする時ハ堪察加へ送るなり

加摸沙都加の岬より

犬雪車

南西ふ當りて数多の島あり我が蝦夷の千島ふ連り接する辺の者い多く唇の傍らふ蹤をゐし女い耳の朶へ環を下るを飾りとゐるに

加摸沙都加い蝦夷の千島と對ひあひの地ふして人家まことふ少らしを百年ゐどまへふ魯西亜の帝翁加里亜国の「ベンヨウスキ」と云ふ人を捕えて此地ふ流せり人口大いふ蕃息さうとぞ

○新増白臘国い北極星ふ近きところふして二ツの島あり共ふ魯西亜ふ從ふ夏とゐども雪深きこと一丈餘冬ふ至ると百日ゐどの間ぐん暗の夜の如くふして惟折々北の方ふ當りて光りの気見ゆるのみ輿地学を勉むる者夏の月を待て僅ゐふ此地ふ至るとゐども皆雪の山氷の野ふして土地を見ること

能いずその北の海岸ふ一ッの高山あり近世獨逸国の人ども山ふ銀の鑛有らんとて汁う事ふ則る坑丁数百人をもうて堀らせども些少の銀をも得ずして還もうその地ハ一年の中ふて七分夜ふして三分昼ありと云ふ

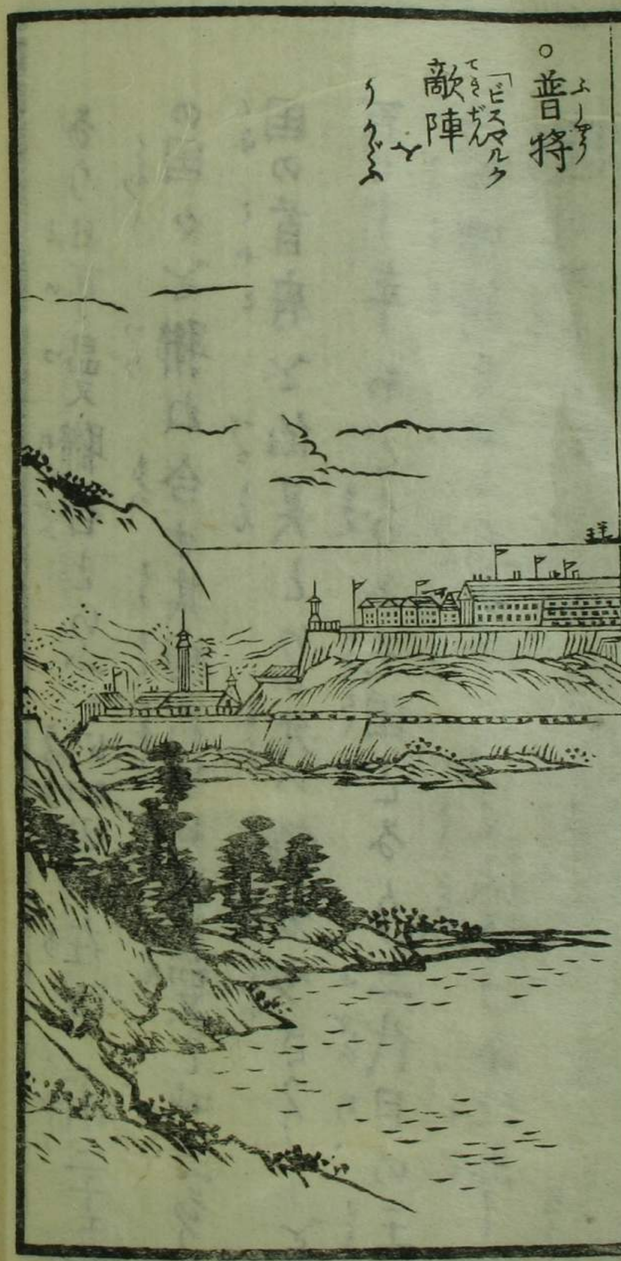
○普魯士國のえゝ

○普魯士ハ日耳曼聯合の中ふての大いなる国

ありて日耳曼聯合といふハ四辺ふ在る大小二十五の国々と聯ね合せ其総名を日耳曼と呼ぶなり国の首府を伯灵といふ元い領分少さゝしと百七十年ゝどおふ王国となり二代目の王の啡哩特と云ふ人ふいらゝ又大そうふ仕出し當時の王ふ至りまするゝ勢ひよゝ五六年おようゝ方々へ軍を向けて日耳曼聯合の内と九分通り平らげ去年仏蘭西ふとも戦争ふ

及び是ゆも勝て仏蘭西帝を生捕ゆ終ゆ曼帝の位ゆ昇りぬ

○普特「ビスマルク」敵陣



當時普魯士王の斯廣大ふ成りしい旗下の大將ふビスマルクと云ふ人ありて此人い歐羅巴洲の中ふて二十年以來ふをき智者ありと他のほとふも評判を清るゐどるり然るふ其ビスマルクを重く採用ゐ故戰爭ふも勝ふの治りも宜きとふ

伯灵の首都も往昔い日耳曼中の悪き地ふして今の如くふいあらず始め和蘭の海大のふ荒き突波陸へ押揚げ住居ゐ難き者多く出來けるを其

難を避て當所ふ來り四本柱の家を造り爰ふ住む者數千人ゐ仮家をコルンと称ふ今伯灵の府内ふ在るコルンと云ふところい則是ゐり

此国い学問の世話行届くて世界ふ一ふして悪事をゐ牢へ入まるる者ふても牢の中ふ師匠を置書物を渡して是を教え読しむるとふ

當府い大炮の名所ゐり高き品ふて一挺ふ付價五万両を過るものゐり

府内の花園ふ花も葉も
共ふ五色ある樹二株あり
詠の美しきを比ふるふもの
なし其名を知らず
ヒ国ふ怪しむ可き湖水あ
り周囲頗ぶる大きし其水
三年の間ハ滿湛えて夥ど
しく奥蝦を生ず次の三年

の間ハ水乾涸て耕作をなるふ宜しとそ
○維士発里刄の中謬塞河と来因河と落合て一ツ
ふ成て流る四辺ふハ野も山も人の庭も葡萄なら
ざる所なく是を作ると夥ぶし白き葡萄もまた
在り故ふヒ葡萄を以て種々の名酒を作り中ー
是を来因酒と号けて世界中へ積送ると夥ぶし
ヒ国の都府哥羅尼とふ所ふ大いなる耶蘇宗
の寺あり六百年ぶふ是を建てかひ〳〵年を積で

造作をなすとども未だゝ全く出来上らず然れども其普請の結構築建の奇妙を極めし歐羅巴の人い称して世界の第一となるとぞ

當町にて香水を製し年々数万の瓶を賣出し是を哥羅尼水と号け洽く世上へ行渡るゝ又亜金とゝふ都府あり往昔の英傑仏蘭西の帝査爾曼とゝふ人爰に住居し後まゝ此地に終りゝとして帝の墓あり十年にあどずのところの

争論より誠の帝の墓なりや否やを見届んとして歐羅巴中の国々の使節まゝ究理の学者とう爰に集會其墓所を堀かゝるに厳重美麗なる棺の中に帝の遺骸依然として形体を崩さず元の侭にて有しとゝふ

同国維土巴敦とゝふ地に名高き湯治場あり温泉四十箇所より湧出旅店の構え園の設け清くして美しきを尽しゝなべ夏に至ると遠近の旅人

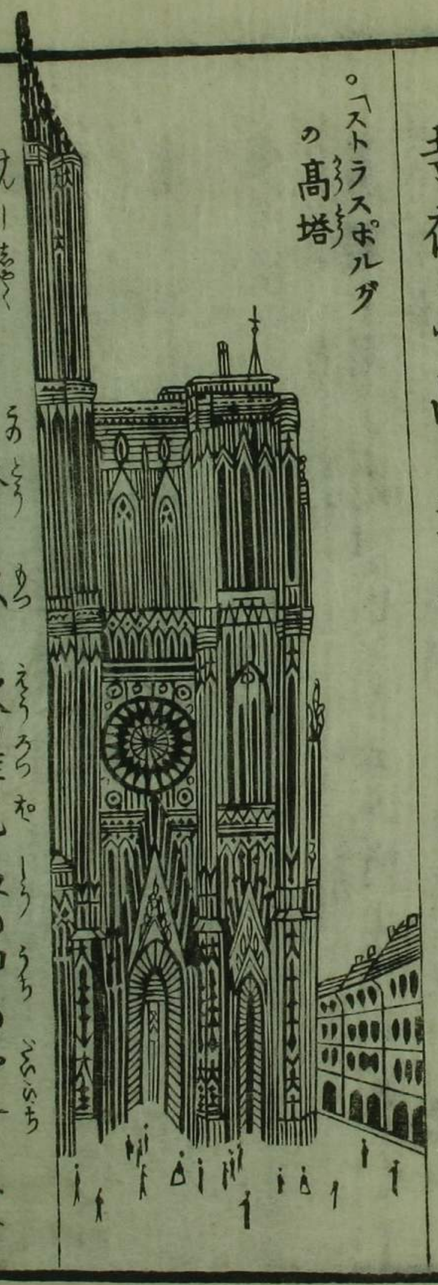
涼しさを探りて集ひ来るとて我が箱根の湯場伊豆の熱海などと同じ

○仏蘭西佛国ふると同じ名の都府あり此処ふ歐羅巴刄の中ふて第一番の豪富「ロッチルス」氏の住居あり當地ふ商業を起してより今でい各国の大都會ふい必ず出店を設くるとぞ

○亜撒西国い元日耳曼の附属なりしを仏蘭西ふ取らと去年きゝ仏蘭西との戦争ふ勝て取戻

しゝる地なり斯達拉斯堡とふ都府ふ大いなる寺在りて高き塔建り直立ふして項上まで七十七間四尺あり此塔を以て歐羅巴刄の中の第一とす

○薩索尼国の易北河の四辺い風景よく繪ふも書得



○「ストラスボルグ」の高塔

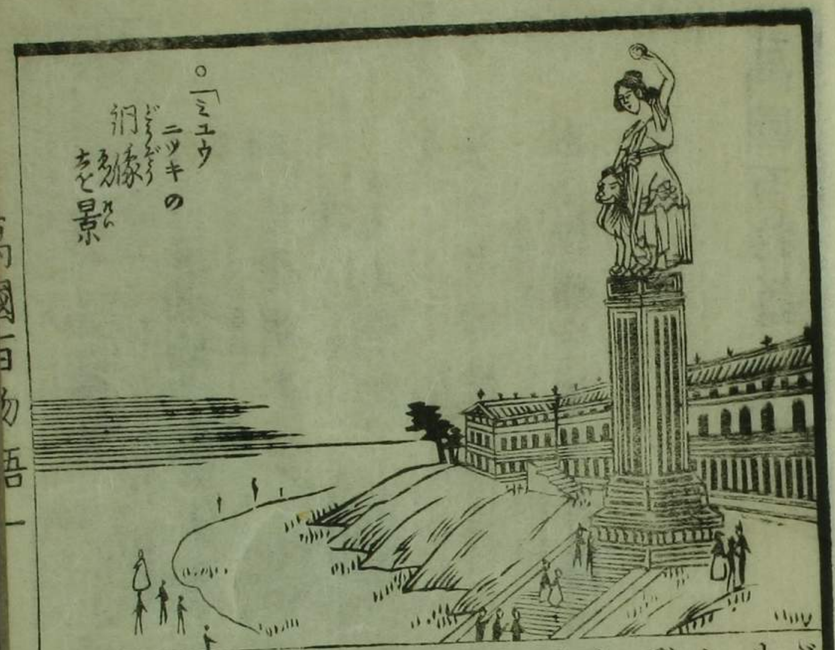
がゝさ程のところゝして其最奇妙なるハ丸き柱らを建るゞ如き大石峩然として路の両脇ゝ連り聳ゆ其高さ十丈余又い溪河の流をの上へ嵒石重り合て両の岸より段々ゝ突出し中ごろゝ至り互ひゝ接りて天然の橋をなせるありこれを巖橋と号く又ヲセンと云ふ所より山を入りて石を積上て造りる飛橋あり此橋の上より眺望れば遠近の風景千態万状極りなきところなり

同国易北河の流の下ゝ「マイゼン」とふ所あり陶器を作り出すを夥しく地を以て歐羅巴中の瀬戸物を焼の元祖とする

又来責とふ城下い名高き大学校有を以て書肆至つて多く世界中ゝて書物を商ふの澤ある英吉利の倫敦仏蘭西の巴黎斯らの来責の町とゝるとぞ此四辺い高名の故戦場ゝして今より五十九年お仏蘭西帝拿破崙とふ人三十万の兵を

將ひ来り墺地利国普魯士国を始め日耳曼列国の大軍と三日三夜の戦ひふ拿破崙敗して後終ふ捕虜となりしが時双方の討死三万余人ふ及ぶ其大軍なるを知るべし

○巴威里国の靡尼克といふ府下ふ銅を以て造りし廣大なる女神の像あり高さ十六間腹の中ふ階子ありて段々ふ是を昇るとき顔の中へ至る両方の眼の玉の穴より遠近を眺望るなり當時世界中



第一の銅像とみす巴丁国ハ歐羅巴中央の高地ふして諸方の大川ハ皆ここ所を以て水源とあす故ふ諺ふ一軒の家の屋根より零る雫一方ハ流れて来因河より北海ふ注ぎ一方ハ流れて多悩川ふ入りて黒海ふ達すと云ふ

水路の混雑多く以て見るべし

日耳曼国の人い天資信実ふして思慮深造物ふ附て発明あるべ勉強て倦とを〻正直誠忠と愛〻喜ぶ然ども寡弱と侮り高貴ふ諂ふの過失なきを能いず又人の下ふ立と嫌ふ因りて勇猛あり勍敵と摧き奇績を顕いすふ足まらと一書ふ見え

萬國百物語一終